

平成26年度 病虫害防除技術情報 第1号

平成26年5月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

ナシ黒星病の防除対策について

ナシ黒星病は、3月下旬～6月及び9月に低温で雨が多いと発病が多くなる。特に4～5月の初期防除が重要である。本年は黒星病に感受性の高い開花期前後に低温・多雨傾向であったため、既に潜在感染している可能性が高い。また向こう1ヶ月は低温傾向で推移することが予想されているので、天候に応じた防除に努めるとともに、薬剤のかけムラがないよう、散布方法にも注意する。

1. 発生の状況

4月中旬の巡回調査では、芽基部病斑率、発生圃場率ともに発生は認められなかった。

発生圃場率 : 0% (平年3.3%、前年11.1%)

発病芽基部率 : 0% (平年0.1%、前年 0.4%)

県予察圃場における芽基部病斑(4月24日調査)は発生がなかったが、幼果の発病が激しかった。

芽基部病斑率 : 本年 0% (平年 : 3.5%、前年 : 17.2%)

発病果率(幼果) : 63.3%

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 降雨前の予防散布を徹底し、散布間隔があき過ぎないように注意する。
- (2) 芽基部病斑、病葉(果)は見つけ次第切除し、園外へ持ち出し処分する。
- (3) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病虫害チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守する。

(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>)